



ちよ ちろう
千 葉 悟 郎
(市民クラブ)

●「放射能汚染土の共同仮置場」の進捗状況は

質問

側溝汚泥の共同仮置場の

設置について、各地域住民に対して、具体的な場所を提示して理解を求めている。しかし、1年以上も過ぎているのに、いまだ共同仮置場が設置されていない。地域で放射能の除染活動や住民の不安解消に、指導の立場に立てるのは市長しかない。その後の進捗状況は。

市長

共同仮置場の設置について、昨年の7月、各区ごとに候補地を提示して検討を重ねてきたが、理解が得られない状況である。水沢区においては、地区振興会8地区ごとに仮置場の設置に向けた協議を進めており、そのうち4地区は現在、具体的な候補地のも

質問

放射線量が市全体として低減化に

とで進行している。



除染や仮置場の情報が満載（除染情報プラザ〈福島市内〉）

あるので、側溝汚泥を地区ごとに測定して、基準値以下の汚泥を最終処分場に搬入することができないか。

市長

側溝汚泥を仮置場に搬入して、そこで測定して安全値であることを確認してからでなければ、最終処分場に搬入することはできない。共同仮置場を年内に設置できるよう努力している。



ちだ みつこ
千田美津子
(日本共産党)

●災害時の対応を抜本的に見直し、総合支所の職員体制の強化と自主防災組織のレベルアップで災害に強いまちづくりを

質問

7月の集中豪雨をはじめ、全国各地で大災害が発生し、被害が起きている。このような中、

当市としても、災害に備え自主防災組織のレベルアップは欠かせない課題だ。また、今回の集中豪雨等の教訓から、緊急時の対応を抜本的に見直すことや、総合支所の体制強化で災害に強いまちづくりを目指すべきでは。

市長

集中豪雨の後、庁内で対応などについて検証を行ったが、今後どのような災害にも対応できるように、被害情報の本庁と支所の共有化と関係部署の連携強化等について、今後の課題として引き続き検討して行く。また、防災組織の組織率は85%となっており、前年度に比べ10・5%伸びている。防災講習や防災セミナーの開催、備品の整備など、引き続きレベルアップできるように努めたい。

質問

いじめ・体罰に対する現状と対応策は。また少人数学級

については。

教育委員長

いじめは小学校で243件、中学校で53件。冷やかしかや悪口などがかなりを占めており、一件々状況を確認している。アンケートや教育相談を通じ、早期発見、早期対応に努めている。体罰は、7件確認している。今後は、体罰に頼らない指導を進めていき、学校では事例研修会を実施している。少人数学級については、30人以下にすべきであり、さらに国県に要望していきたい。



日本共産党議員団による集中豪雨災害現地調査(7月28日)